

チャレンジ工房news

第 89 号 平成 30 年 7 月発行

発行先 パソコン工房チャレンジ

編集責任者 曲 圭子

工房の日々

先月、発生した北大阪を震源とする「大阪北部地震」により被災された方々並びに先月末からの集中豪雨によって、被災された方々に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日でも早く普段の生活に戻れますことを願っております。

地震が発生した朝、尼崎・西宮でも震度 5 弱の揺れが観測され、24 年前の「阪神・淡路大震災」を思い起こすかのように、強い縦揺れを 20 秒ほど感じました。

京阪神の JR や私鉄はすべて地震によって、すべて寸断され、帰宅困難者も関西各地であふれるほどでした。

幸いなことに、スタッフも所員も工房に通勤・通所する前だったので、エレベーターに閉じ込められたり、地震の強い揺れによって停車した電車に閉じ込められずに済みました。

地震が発生した時刻が、もう少し遅かったら電車で日々、通所・通勤している所員さんやスタッフも「電車で何時間も閉じ込められる」

などの被害に遭遇していたかも知れないと考えると、「決して、他人事では済まされない」と思い何だか心が痛みました。

南海トラフ地震はもちろん、今回の北大阪地震によって、上町断層などの関西の活断層が活発化されたり、近年の地球温暖化によって、ゲリラ豪雨が多発していることで「いつ」「どこ」で自然災害が起きれるか分からないので、「研修中に地震が起こった場合」や「通所・出勤前の早朝に起きた場合」などの色んな状況のパターンを想定して防災計画や避難計画を立てる必要性があると感じました。

また嬉しいことに、スタッフの案否や工房のことを気にかけてくれて、「工房の方は、大丈夫ですか」「もし、テキストやパソコンとかが、床に散乱していたら片づけ手伝いに行こうか」と心配して数名の所員さんが工房やスタッフ宅に電話やメールをくれました。そのような所員さん一人ひとりの工房に対する気持ちが嬉しく、とてもありがたかったです。

今後の予定

8/11(土)~8/19(日) 夏期休暇

※上記の 9 日間、所員・スタッフの心身とものリフレッシュを図るため、夏期休暇を頂きます。

※休み明けは、8/20(月)から開所します。



野菜市を開催しました・・・

去年の暮れの12月に、5年ぶりに「ふれあい野菜市」を開催したところ、地域の方々からかなりの好評を頂いたので、夏の時期にも野菜市を開催できればと思い、今回もJA兵庫六甲の方に全面的な協力をお願いして今月の9日に開催しました。

ちょうど梅雨シーズンだということもあり、野菜の生育状態や野菜市当日の天気を心配していましたが、反対に「青しそ」などの葉物野菜がしなびれないか心配するぐらいの晴天に恵まれました。

早朝からありがたいことに、所員さんや数名の地域の方々がテント張りや商品の陳列などの応援に駆けつけて頂き開店前には、きゅうり・トマト・なす・枝豆などの朝採りの新鮮な夏野菜がテントの周りを彩りました。



今回は、野菜の生育状態や野菜市当日の天候を気にしながらの開催日の決定だったので、十分に地域の方々に広報する期間もなかったもので、広報近くの方々やスタッフ・所員の知り合いの方々にしか来て貰うことができずに残念でしたが、買いに立ち寄って頂いた主婦層の方々に「このトマト、色もよくてとても美味しそう」「きゅうりも美味しそう」「採りたてで新鮮なお野菜を安く買えるなんか嬉しい」とかなり喜んで頂くことができました。

次回は、鍋物の冬野菜が欲しくなる12月上旬ごろに開催することができればと思っています。

東北からすぐに「見舞いのメール」が届きました

全国各地で災害が頻発する中、6/18に震度6弱の「大阪北部地震」が起きました。朝方大きく揺れを感じながら、このあと本震（南海トラフ大地震）が来るのだらうと覚悟を決めかかっていました。

すぐに東北作業所の世話役の田中万里子さんからメールが届きました。「今朝ほど、ニュースを見て驚いております。皆様、お怪我等有りませんでしたでしょうか？電気・水道・ガス等は如何ですか？阪神淡路大震災をご経験された方も多くいらっしゃると思いますので、危機管理は、私達とは違っているとは思いますが。ニュースでは、市民の方々の状況がまだ流れていませんので、心配しております。どうぞどうぞ、お気をつけ下さい。」

すぐに、大きな被害にまでは至っていないことを返信しましたが、気にかけていただいている親戚や友達のように身近に感じました。教えていただいた「地震が来た時のことを思ったら、今やっておいたらいいことがたくさんありますよ」と安否確認のことから、緊急支援センターの準備のことなど身障会館で話していただいていた。なにかあってもこうした救援の手は全国から届くと信じることができます。南海大地震が起こったら、きっと田中さんたちは「関西の、尼崎のひとたちが救援を待っている」と動いていただけだと思います。

7/8（日）に会員の岩倉さん、吉崎さんと一緒に72通のゆうパック箱詰めを作業し、発送しました。今年は合計98人の方々から購入予約を受けました。イチゴジャム440個、クッキーなど535点、総額544,400円に達しました。これもひとつ、ひとつ注文いただいた皆様の気持ちが合わさっての個数と感謝申し上げます。すぐに購入総額を宮城へ送金する手配をしております。



今後とも東北支援活動にお力をお貸しください。（広瀬）